

## 様式 2

### 平成24年度第2回安曇野市児童館・児童クラブ運営委員会 会議概要

1	審議会名	平成24年度第2回安曇野市児童館・児童クラブ運営委員会
2	日 時	平成24年10月11日 午後3時から午後3時50分まで
3	会 場	穂高健康支援センター集団指導室
4	出席者	宮下委員、松澤委員、篠部委員、渡辺委員、宮島委員、一志委員、福田委員、相内委員、 小沢委員、柴委員代理、宮澤委員、丸山委員、鶴田委員、三原委員、荒深委員、 小川原委員
5	市側出席者	臼井課長、浅川係長、百瀬主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成24年10月25日
協 議 事 項 等		
1	会議の概要	
	(1) 開 会	
	(2) あいさつ	
	(3) 会議事項	豊科地域児童館建設検討会報告について 平成25年度児童クラブの募集について 児童館・児童クラブの方向性について その他
	(4) その他	
	(5) 閉 会	
2	会議概要	
	会 長：	豊科地域児童館建設検討会報告について
	事務局：	豊科地域児童館建設検討会報告については、検討会会長が平成24年8月22日に市長へ報告しました。 ～報告書により説明～
	会 長：	質問はありますか。 なし
	会 長：	平成25年度児童クラブの募集について
	事務局：	説明会が11月5日から9日まで5地区で行われます。受付期間は11月20日から11月30日までです。 平成25年2月12日に決定通知を出す予定です。～入所説明資料により説明～
	会 長：	質問はありますか。
	会 長：	児童館・児童クラブの方向性について
	事務局：	児童館・児童クラブの方向性（素々案）について説明
	委 員：	明北小の児童は、交流学習センターを下校後利用しているが、潮沢など遠い地域の児童は利用できないというのが現状です。また、5ページの児童数を見ると児童数は減っていきませんが、児童数が減ることによる空き教室は現状とかわりません。危惧されることは、保護者の就労条件です。母親が遅くまで就労するようになり、ご飯を食べる時間が遅くなる。児童館が無いから自宅にいなくてはならないなど、劣悪な環境があります。社会情勢を見ながら考えていかななくてはなりません。 明北小は明科北保育園と隣接しており、各小学校区に一館という目標がありますので、完遂しなければならぬと、素朴な考えがあります。
	会 長：	他にございますか。
	委 員：	児童クラブが学校区にできたことは良いことですが、放課後の児童の居場所としての自由来館できる児童館はいくつ考えられていますか。今のままなのか、増やすのかどうでしょうか。

事務局：施設的には、児童館と児童クラブを切り離すという考えから明科については、明科南保育園の跡地を児童クラブとして利用したらどうかと考えています。今のところ明北は考えていません。

児童クラブ室を分離されていけば、児童館が自由来館の館になると考えていきたいと思いますが、今は児童クラブが中心となっています。豊科中央児童館と高家児童館を一つにし、自由来館でこられるような見込みで設計を考えていますが、財政的なこと、敷地のことなどありますので何とも言えません。穂高北部については、児童クラブと分離していますので、北部の児童館をどうするのか、存続、統合を検討していきたいと考えています。自由来館としても児童館については、穂高北部と今度建設するところしかなくなります。あとは児童クラブのあり方を変更していくということです。

あと、下校の途中で児童館に寄り道ができるのかどうかという問題があります。今後考えていきます。なお、児童クラブの利用者数が予想をはるかに超えています。児童館だけでは収容できなくなっています。これが解決すればこの児童館も自由来館ができるのではないかと思います。

委員：学校より南の子どもは児童館を利用していますが、遠い地区の子どもはなかなか利用できていません。学校の近くに児童館があれば、今よりは良くなると思います。子ども教室には40人くらい利用しています。

事務局：子ども教室の所管が児童係になりますので、児童クラブとの住み分けをどうするのか考えています。

今の児童館の現状として学校のある日に児童館に遊びに来る児童がいるとすれば、明科を除けば豊科中央か穂高北部かだと思います。そういう子を受け入れるにはどうしたら良いかを考えなくてはなりません。一旦家に帰ってから児童館を利用するとなっています。穂高北部児童館には利用はありますか。

委員：有りません。学校から家に帰るまでに30分程度かかり、一旦帰って児童館に来ても遊ぶ時間があまりないと思います。近隣の子どもは遊ぶ時間は潜在的にあります。現状は午後小学生が来ないので、午前中に利用している世代が午後もあるという状況です。

事務局：穂高北部児童館については、来年から建設について考えていきたいと思っています。

委員：児童館に近いお子さんは、遊びに来ますが、遠いお子さんは土曜日の利用となっています。

事務局：極端な話ですが、午後の児童館の営業は必要かどうかということになりませんか。これではよくありません。

会長：子ども教室で放課後遊び、帰れることが今は水曜日ですが、この日数が増えていけばいかがでしょうか。

委員：堀金では子ども教室に登録されていない児童が多くなり、水曜日の児童館利用児童が多くなっています。自由に遊びたい子が増えているように思えます。

委員：明科は同じです。自由来館が多いなと感じる時が水曜日ということがあります。

委員：三郷はその逆です。

委員：子ども教室と児童館を一緒に考えられませんか。

事務局：そうしたいです。子ども教室を毎日行い、それ以上の時間を児童館で預るのが良いと考えます。

委員：子ども教室のこれからのあり方はありますか。

事務局：あります。運営委員会があります。ただ、国の補助が削られてきています。縮小傾向にあります。0から18歳までの学校以外のことは児童保育課で行う方向であります。

会長：使っている児童の気持ちを聞いてみたいですね。

委員：子ども教室は学校の延長のような形でされると窮屈な感じがするのもかもしれません。

会長：集団で学年をまたいで遊べることを考えていますが、そうされると子どもたちは制約されていると感じてしまうのかもしれません。親御さんの立場でなにかございますか。

委員：家が山の方にあり、自由来館があったとしても利用できないというのが実情です。

今の時点では、一旦家に帰ってから児童館へ行くという形ですと、遊びたくても遊べません。

委員：先生方が親切・丁寧に対応していただいています。自由来館に関しては、おやつの問題や宿題のことがあります。一旦家に帰って宿題をしてちょっと遊ぶという感じで自由来館に出すということを親に理解を促した方が良くと思います。

委員：子ども教室は終わった後、自分で帰りますので、親としては心配です。低学年では行かないでと思います。

委員：現状ですが、学校から児童館まで30分かかりますので、利用率は低いです。子ども教室に登録したら児童クラブにも連絡してくださいとお願いします。子ども教室に登録している子については児童クラブに来たのかどうか確認をしています。

委員：家庭教育講座が児童館に移管されるということで、「環境を整え、利用者ニーズに応えられる魅力ある施設として」とありますが、具体的に伺いたいです。家庭教育講座もかかりましたし、児童館の子育て支援にも両方にかかりました。児童館の良さは自分で課題を見つけ共に母親同士が声を掛け合って仲間作りをしていくという、そんなお手伝いできて自然な形です。教育委員会は受け身的な講座ですので、ぜんぜん違ったシステムでやってきていると思います。その中を優遇していくということで、どうやっていくのか、児童館の良さを大切にしたいと思います。また、母親の学習して欲しいということも考えています。

事務局：基本的には児童館で実施している事業に教育講座的な要素を取り入れていくと考えです。24年度は明科のモデルをベースに直営3館は実施しています。冒頭でもお話ししましたが、全館指定管理になっていきます。指定管理者にはモデル的なものを示しながら市としての方針をお願いし、それにそれぞれの館の独自事業を加えて進めていただければなど、市が子育て支援の目標ですとか一本化ということについては指示を出していきたいと考えています。主体は児童係となりますので、子ども支援係と話を進めていきたいと思っています。アンケートについては毎年行っているアンケートを言っています。26年度末で次世代育成行動計画が切れます。その後の計画を立てる上でニーズ調査をしようと考えています。具体的にはPTAの中に入って行って、フィールドワーク的に今望んでいることは何であるか、聞いていき計画を立てようと考えています。ニーズに応えられるようにしていきたいです。

委員：子育て支援はとても大切な部分だと心の中で温めていますので、わくわくしました。楽しみです。

委員：児童クラブの受入れについて、6年生まで受け入れることが必要なかどうか。クラブの中において過ごすことが本人にとって良いかどうか。高学年まで受け入れができるようにするということが力がそそがれているところがあります。それよりも本来の自由来館という児童館の有るべき姿に近づいていくように力を注いだ方が良いと思います。

委員：児童館は18歳まで利用できるということを考えますと、自由来館の方で5年生でも足が遠のくということが実際ありありますが、自由来館で5,6年生あたりから中学生を巻き込んで、子どもたちの思春期が始まる小、中学生の子どもたちが児童館に行って、そこで「何か」、自分たちでこの児童館で「何か」を目指してやっていくには、やはり自由来館型の児童館の役割になっていくのではないかと思います。児童クラブとしての学年をあげていくことを考えるよりは、その子どもたちが他の自由来館のような児童館を利用する方向性にスポットをあてて考えていくとまた違ったあれが見えてくると思います。

委員：私もそう思います。今回、この夏に障害児を受け入れました。この方が4年生で来年からは利用ができないと、うちの子は留守番ができません。何とか年齢を引き上げていただきたいという切実なお声がありましたので、その点は考慮していただきたいです。

会長：方向性については以上とさせていただきます。その他について、に移ります。

事務局：おやつ代について説明。全体の平均を児童クラブ入所説明会で口頭にて公表したいと思います。災害時のマニュアルについて説明。

委員：地震の場合、保護者の迎えが必要とありますが、迎えに来られない場合や帰っても保護者がいない場合があります。学校では学校に泊める場合を想定していますので、児童館でも泊めることを想定してください。

会長：よろしいでしょうか。以上で議事を終わらせていただきます。

職務代理：これもちまして、第2回児童館・児童クラブ運営委員会を終わりいたします。

次回は平成24年2月中旬開催予定